

ドキュメンタリー映画

「精神」

ワークショップと
講演もある、
参加型の上映会☆

秋田上映会



「正気」とは？「狂気」とは？ 心の傷に包帯は巻けるのだろうか？

格差社会、ひきこもり、ニート、ネットカフェ難民、ワーキング・プア、無差別殺人…自殺者数が13年連続で3万人を超える現代日本。閉塞的で孤独感がただよぶこの国で、誰もが「生きにくさ」を感じたことがあるのではないだろうか。『精神』は、精神科にカメラを入れ、その世界をつぶさに観察。「正気」と「狂気」の境界線を問い直し、現代人の精神のありように迫った。同時に、心に負った深い傷はどうしたら癒されるのか、正面から問いかける。

ここにある病。ここにある、小さな光。

外来の精神科診療所「こらーる岡山」に集う様々な患者たち。病気に苦しみ自殺未遂を繰り返す人もいれば、病気とつきあいながら、哲学や信仰、芸術を深めていく人もいる。涙あり、笑いあり、母がいて、子がいて、孤独と出会いがある。そこに社会の縮図が見える。

代表である山本昌知医師のモットーは、「病気ではなく人を看る」、「本人の話に耳を傾ける」、「人薬（ひとぐすり）」。精神科病棟の鍵を取り払う運動にも取り組んできた「現代の赤ひげ」とも言える彼は、患者たちが地域で暮らしていきける方法を模索し続けている。



『選挙』で世界を沸かせた想田和弘監督 観察映画第2弾！

監督は、ニューヨーク在住の映画作家・想田和弘。前作『選挙』に続き、ナレーション・説明・音楽一切なしで、観客が自由に考え、解釈できる作品を完成。「被写体にモザイクをかけると、偏見やタブーをかえって助長する」と考えた監督は、素顔で映画に出てくれる患者のみにカメラを向け、人間として鮮烈に描き出すことに成功した。



開催日時

平成23年7月24日(日)

会場

秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎

参加料

500円

定員100名

主催

精神障がい者サポート「まいペーす」

(お問い合わせ)

TEL 090-6627-1086 (申し込み不要)

ホームページ <http://mypaceyokote.web.fc2.com/>

映画『精神』秋田上映会

テーマ「精神病に対する誤解や偏見をなくし、

地域と共に生きるにはどうするべきか」

参加型の上映会って、何だろう!?

“精神”に関心を持って参加された方同士、映画だけではなく、お互いの気持ちを話してみませんか？

ワークショップでは、ファシリテーターの江上厚さんと一緒に4、5人のグループに分かれて、映画の感想や、気付いたこと、思っていることを語り合います。いろいろな声を聴いて、話して、参加者がつながる場として、どうぞ気軽にご参加ください。

講師の佐藤秀一さんは、ご自身の体験談から、統合失調症について、社会の誤解や偏見、そして地域と共に暮らしていくあり方を考えていきます。

平成23年7月24日 in 遊学舎

<プログラム>

12:30 開場

13:00 映画『精神』上映

(上映時間 135分)

[休憩 15分]

15:30 ワークショップ

講演

17:30 閉会

<プロフィール>



佐藤 秀一氏 (八郎瀧町・精神保健福祉士)

1968年生まれ。宇都宮大学教育学部卒業。秋田県公立高校で、社会科教諭を7年間勤める。30歳ごろに統合失調症を発症し、一時幻聴や妄想に悩まされ入院生活を送る。高校教諭を退職後、専門学校で精神保健福祉を学び、2005年に精神保健福祉士の資格を取得。現在は、統合失調症の治療を続けながら、精神保健福祉士として「佐藤工房(さとこぼ)」を起業し、相談や講演活動を行う。

著書「心の健康室～ゆっくり歩きましょう」2005年自主出版。



江上 厚氏 (埼玉県深谷市・ラボラトリー体験学習ファシリテーター)

1955年生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。2002年にファシリテーターとして独立し、全国各地で活動。秋田県で15年の経験を持ち、秋田大学付属病院、県青少年交流センター等で多くのセミナーを実施。

*ファシリテーターとは、人々が集まる場をデザインし、そのコミュニケーションを支援・促進する人です。ワークショップでは、参加者一人ひとりの声を聴く場をコーディネートします。

主催＝精神障がい者サポート「まいぺーす」

TEL 090-6627-1086 (担当 大塚)

後援＝秋田県/秋田市/秋田県教育委員会/秋田市教育委員会
NPO法人「スタートライン」

会場＝秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎

秋田市上北手荒巻字堺切 24-2 TEL 018-829-5801

